

製品名: TTF-I ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab19403

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:10000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	TTF1
別名	TTF1; Transcription termination factor 1; TTF-1; RNA polymerase I termination factor; Transcription termination factor I; TTF-I
遺伝子 ID	7270.0
SwissProt ID	Q15361
免疫原	抗血清はヒト TTF1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 10-59

背景

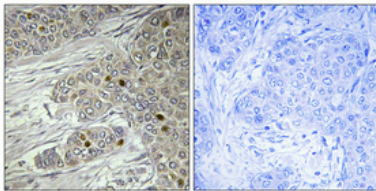
この遺伝子は、核小体に局在し、リボソーム遺伝子の転写に重要な役割を果たす転写終結因子をコードしています。コードされてい

るタンパク質は、pre-rRNA コード領域の下流にある Sal ボックス終結エレメントに結合して、RNA ポリメラーゼ I の転写終結を媒介します。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。この遺伝子は、甲状腺特異的遺伝子発現の調節に役割を果たす NK2 ホメオボックス 1 (甲状腺転写因子 1 としても知られています) とシンボル/エイリアス「TFF1」を共有しています。[RefSeq 提供、2011 年 4 月],ドメイン:N 末端領域は、C 末端領域との相互作用を介して DNA 結合を阻害します。機能:リボソーム遺伝子の転写を終結させ、複製フォーク停止を媒介し、クロマチン上の RNA ポリメラーゼ I の転写を制御する多機能核小体タンパク質。rDNA 制御において二重の役割を果たしており、rDNA 転写の活性化とサイレンシングの両方に関与する。TIP5 との相互作用により DNA 結合活性が回復する。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。配列注意: 汚染配列。ポリ A 配列の可能性あり。配列注意: 汚染配列。C 末端部に由来不明の配列がある。配列注意: 汚染配列。N 末端部に由来不明の配列がある。類似性: Myb 様ドメインを 2 つ含む。サブユニット: オリゴマー。オリゴマー構造により、2 つの別々の DNA 断片と同時に相互作用することができる。TIP5 と相互作用する。、

研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; その他の因子

画像データ



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高压高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。